

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

明治二十二年民事控訴第八号

(発行年 / Year)

1910

明治廿二年民事控訴第八号

裁判言渡書

控訴人福岡縣福岡區博多上市小路十三番地平民之城戸正三郎相續人旅人宿營業

城戸夕カ

同 同縣同區博多上辻堂町世一番地平民
桶屋職

高木勝平

同 同縣同區同町同番地平民現今大阪府東區徳井町二丁目世六番地寄留製紙職

高木才次郎

控訴兼代人同縣同區上名島町卷番地平民旅人宿營業

長崎控訴院

篠崎甚三郎

被控訴人福岡縣福岡區博多中島町六十八番地、第一士族無職業

竹森算

同 同縣同區博多箔屋町廿九番地士族無職業

尾崎榮

代言人長崎縣長崎區諏訪町四十八番戸寄留岡山縣士族

九毛兼通

右竹森算外一人ヨリ高木勝平外三名ニ對スル家屋明渡、訴訟福岡始審裁判所カ言渡シタル裁判ニ服セズシテ高木勝平外三名ヨリ木院ニ

控訴シタル依リ之ヲ受理シ控訴兼代人及被
 控訴代言人、陳述ヲ聴クニ其要領左ノ如シ
 戸タカハ明治十三年五月中本訴ノ宅地建家即
 々筑前國那珂郡堅粕村字水茶屋千三十二番地
 ノ宅地差建家七棟ヲ敷金三百五十円ニテ前所
 有者城戸常吉ヨリ貸借シ之ヲ柴田安兵衛ナル
 者ニ轉貸シテ貸坐敷營業為致置キタル処明治
 十七年九月中被控訴人等ヨリ右常吉ニ對スル
 貸金催促訴訟事件ノ為ノ誣宅地建家公賣ニ付
 セラレタルヲ以テ安兵衛ハ廢業シテ轉宅シタ
 ルモ賃借契約年限中ナルニ依リ高木勝平外二
 名ニ誣家ヲ轉貸シテ營業ヲ為サシメントセシ

長崎控訴院

ニ被控訴人ハ其寄留届ニ連印スルヲ拒ミシヨ
 リ明治十九年十二月被控訴人ニ對シ寄留届連
 印請求ノ訴訟ヲ提起シタル処原裁判所ニテハ
 控訴人ノ勝訴トナリタルモ被控訴人ノ控訴ス
 ル所トナリ本院ニ於テ控訴人カ請求不相立旨
 ノ終審裁判ヲ與ヘラレタルニ依リ高木勝平外
 二名ハ遂ニ誣家ニ住居スルヲ能ハサリシ因テ
 控訴人篠崎甚三郎城戸タカハ右訴訟ノ始終審
 入費迄被控訴人ニ償却シテ事結了ヲ告ケタ
 ルナリ然ルニ被控訴人ハ更ニ控訴人四名ニ對
 シ本訴ヲ提起シタルモ控訴人ノ内高木才次郎
 ハ乙弟三号証ノ如ク堅粕村千二十四番地ノ二
 ノ二ハ十八年八月八日ヨリ廿一年二月中迄寄

留シタル末高業ノ都合ニ依リ大坂府下ニ轉住
 シ高木勝平篠崎甚三郎城戸タカハ乙弟四五号
 乙弟八号証ノ如ク各自ノ本籍ニ居住シ他ニ轉
 住寄留等ノシタル一ナケレハ本訴ノ家屋ニハ
 何レモ無關係ノ者ナルヲ以テ被控訴人ノ請求
 ニ應スルノ責任ヲシ然レバ控訴人篠崎甚三郎
 城戸タカハ前文寄留届連印請求ノ事件ニ付当
 時上告中ナリシニ付其結果ヲ見タル上ニアラ
 サレハ答弁為シ能ハサル旨始審裁判官ニ上陳
 シタルニ然ハ其準備書面トシテ談契約成立テ
 ノ原因及上告ノ理由ヲ詳細ニ申出ヨトノ諭示
 ナリシニ付其旨答書ニ記シテ差出シタル処其
 儘審理中止トナリ居タル末明治廿一年十一月

長崎控訴院

廿四日突然召喚アリシモ控訴人ハ他行又ハ病
 氣中ナリシニ依リ出廷為ス能ハザリシ處闕席
 ノ儘直ニ被控訴人請求ノ如ク談家明渡ス可キ
 ノ判決ヲ與ヘラレタルハ頗ル不当ノ措置ナリ
 トス其他該裁判ハ不当ノ点少ナカラスト雖モ
 今茲ニ覆審ヲ求ルハ即チ該家ニ關係ナキ控訴
 人ニ對シ明渡ヲ言渡サレタル一点ニアリ因テ
 原裁判ヲ取消シ相手違ノ訴訟ナリトシ被控訴
 人ノ請求ヲ排斥アラシムヲ求ムト云ヒ乙弟一
 号乃至八号証ヲ提起シ而テ当法廷ノ訊問ニ對
 シ本訴ノ家屋ハ公賣落札ノ降元所有者城戸常
 吉ヨリ同人ニ引渡シタルモノト思料スル旨答
 弁セリ



被控訴人陳述、要旨ハ本訴ノ宅地建築カ
 被控訴人ノ所有ニ歸シタル一及ヒ寄留届連印
 請求ノ訴訟アリト願末ハ略ニ控訴人陳述ノ如
 クナルモ右寄留届連印請求一件ハ本院ノ終審
 裁判ニテ甚三郎タカケ連印請求ノ權利ナキ者
 ト判定セラレタルニモ拘ハラス控訴人等ニ於
 テ魚謂苦情ヲ唱ヘ談家屋ノ明渡ヲ肯ンセサル
 ヲリ不得己本訴ノ請求ニ及ヒタルモノナリ然
 ルニ控訴人ハ本院ニ控訴スルニ及ンテ始テ魚
 住居ナリ無關係ナレハ相手違ノ訴訟ナリト主
 張スレバ其否ニサルハ新原第4号証ニ依ルモ
 明瞭ナルノミナラス始審ノ訴答書類及ヒ廿年
 本院民第18号寄留届連印請求ノ控訴書類ニ

長崎控訴院

依テ甚三郎タカケニ關係シテ故障ヲ為シ勝
 平才次郎ハ之ニ住居シタル一ハ明白ナルヲ以
 テ始審ノ裁判ヲ認可フランヲ求ムト云ヒ原
 第1号及至第4号新原第5号証ヲ提供セリ
 因テ各証拠及ヒ廿年本院民第18号关本訴始
 審ノ訴訟書類ヲ審閲シ且雙方ノ弁論ヲ聽キ説
 明スル左ノ如シ
 控訴人於テ篠崎甚三郎城戸タカケ始審ニ於テ
 本訴建築ノ明渡ヲ拒ム旨ノ答書ヲ出シタルハ
 寄留届連印請求ノ事件上告中ニ付原裁判官ノ
 諭示ニ從ヒ其結果ヲ得タル上ノ準備ニ依ル
 トノ陳述フルニ依リ之ヲ調査スルニ始審ノ訴
 訟書類中上告ノ結果ヲ得タル上ノ準備書面ナ



リト見做ス可^レ書類アル1ナク亦始審裁判官

カ之ヲ指示命令セシノ痕跡タモアル1ナシ而

テ甚三郎カ再答書ヲ宛スルニ寄留届連印一件

ノ上告受理セラレタレハ詎裁判ハ尙確定ノモ

ノニアラストノ主旨ニ筆ヲ起シ賃借權アル旨

ヲ主張シ賃借年限中ニ付其明渡ヲ拒絶スト結

論シアリ又高木勝平高木才次郎ノ答書ニ被告

ハ篠崎甚三郎ヨリ依頼ヲ受ケ詎家ノ取締家番

ニ居住ヤシモノサレハ云ニトアリ又廿年本院

民第十八号ノ訴訟書類ヲ宛スルニ明治十九年

十二月六日付甚三郎タカノ訴状中ニ當時現住

ナサシノ高木才次郎外二名ノ者ハ云ニ又同

書類本院審判始末書被控訴兼代人篠崎甚三郎

長崎控訴院

ノ陳述ニ控訴人ハ詎家屋ヲ買得シ十七年九月

十八日ニ於テ所有權ヲ得タルモ其後明渡ヲ請

求スルニモアラス其儘前借家人ヲ住居ヤシメ

云々其翌月即ケ十月大風アリテ右家屋ノ内三

棟ヲ吹伏シタルニ付取片付方ヲ長ヨリ控訴

人ニ連セラレ自分ヨリモ控訴人ニ通知シタル

モ控訴人ハ一向取合ハサリシ故ニ甚三郎於テ

取片付ヲ為シ伏レタル三棟モ築造シ竹島某外

一名ニ賃渡居云エトアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ

控訴人カ詎家ノ明渡ヲ拒ミシ事莫明瞭ニシテ

魚関係ナリ無任居ナリトノ陳述及ヒ控訴人カ

公賣落札ノ際前野有者ヨリ直ニ被控訴人ニ引

渡シタルモ



ラントノ陳述ハ採用スルニ由

シナシ尤控訴人於テ勝平才次郎々始審ノ答書
 ハ謬誤ナリト申立ハアレバ果テ謬誤ナリト
 認レ可キノ証憑ナシ旁以テ被控訴人カ控訴人
 ニ対シ家屋明渡ヲ請求セシハ相手僅ニアレヌ
 從テ控訴人ハ本訴ノ家屋ヲ被控訴人ニ明渡ス
 可キ義務アルモノト為ス
 右ノ如クナルヲ以テ其他ハ一々説明セヌ
 右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ
 明治廿一年十一月廿四日福岡始審裁判所カ言
 渡シタル裁判ハ相当ニシテ取消ス可キ筋ナシ
 因テ控訴人ハ抗前国即郡堅粕村字水茶屋千
 三十二番地ノ宅地建家ヲ速ニ被控訴人ニ明渡
 ス可シト命ス

長崎控訴院

訴訟入費ハ始終審共控訴人ニシテ負担ス可シ
 明治廿二年三月十五日長崎控訴院公廷ニ於テ
 終審ノ裁判ヲ言渡スモノ也

長崎控訴院民事局長代理 野敏行

控訴院評定官津村董

控訴院評定官代理 始審裁判所判事河野通

裁判所書記 柏原栄三郎

長崎控訴院

右膳 寫本

明治二十六年七月

長崎控訴院

書記

邊源太郎



長崎控訴院

